

# Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 42  
Fall  
2013

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

- ◆講師就任のご挨拶(厚東隆志) ..... <1>
  - ◆杏林アイセンターの Visitors ..... <4>
  - ◆VR 班の臨床活動(國田大輔) ..... <2-3>
  - ◆輸入角膜による角膜移植 ..... <4>
  - ◆オープンカンファの報告 窪田良先生(井上真) ..... <3>
  - ◆イベント情報 ..... <4>
  - ◆フォトアルバム：山田昌和先生祝賀会 ..... <3>
  - ◆編集部からのコメント ..... <4>
- <執筆者：括弧に明記 production：岡田アナベルあやめ、堀江大介、仲寫みずき>

## 講師就任のご挨拶(厚東隆志)



厚東 隆志

本年4月より杏林大学医学部眼科学教室講師を拝命いたしました厚東(こうとう)と申します。着任より半年が過ぎ、新天地での環境にも慣れてきました。温かく受け入れて頂き、諸先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

私は平成13年に慶應義塾大学医学部を卒業、同眼科学教室に入

局しました。平成15年に大学院に進学、最初の2年間は病理学教室共同研究員として、その後の2年間は現北海道大学・石田晋教授の研究室の立ち上げに参加し基礎研究に従事しました。東京都済生会中央病院への出向を経て慶大眼科に帰室、以後硝子体班の一員として網膜硝子体手術の研鑽を積んで参りました。この度平形教授、井上准教授よりお誘い頂き、杏林アイセンターという新天地へやってきました。

少し思い出話をさせていただきますと、私の入局当時慶應硝子体班のチーフが井上先生で、手術室はもちろん学会発表や論文作成でお世話になったり、また仕事が終わってからはフレマン一同を食事に連れて行って下さったりと、公私ともにかわいがって頂きました。その背中に憧れ、1年目の秋には網膜硝子体手術をやりたいと早々決めたものです。当時の杏林アイセンターは樋田教授という大教授のもとに平形教授を擁し、井上先生もフェローとして腕を磨いた、「網膜硝子体の総本山」とでも言うべきあこがれの場所でした。それから12年の

時を経て、自分がその一員となった巡り合わせに縁を感じております。

私の専門は網膜硝子体外科で、三度の飯の次くらいに手術が好き人間です。硝子体手術は疾患を問わず何でも手を出しますが、慶應に角膜疾患が多かったこともあり、角膜混濁を伴った硝子体手術の経験は比較的多く経験していると自負しております。難治ではありますが、通常であればインオペとなるような症例でも何とか治療の土俵に乗せられるようにしたいと思います。最重症例では角膜移植との同時手術を要することもあり、山田教授率いる角膜グループとの連携をいっそう強化する必要を感じております。

私の医師としてのあり方として、生涯術者であること、生涯教育者であることを目指しています。若輩の身で講師の大任を仰せつかり、自分自身の果たすべき、また求められている役割がまだ十分に見えておらず模索しているところですが、先の目標は私に期待されている役割と少なからず重なるのではないかと考えています。杏林アイセンターに集まる数多くの症例を執刀し、それらの症例を通して後輩の先生達に手術手技をはじめとする様々な経験を伝えていきたいと思

います。実力も経験もまだまだ浅い非才の身ではありますが、精一杯杏林アイセンターの発展に尽力する所存です。諸先生方には今後ともますますのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 略歴

- 平成13年 慶應義塾大学医学部卒、同眼科研修医
- 平成15年 慶應義塾大学大学院医学研究科外科系眼科学
- 平成19年 東京都済生会中央病院眼科医員
- 平成20年 慶應義塾大学医学部眼科学教室助教
- 平成25年 杏林アイセンター講師





